

研修会報告書

地域包括ケアシステム推進委員会 × 自動車運転支援委員会 コラボ研修会
医療と地域を結ぶ『自動車運転と地域移動支援』

1. 開催概要

- 開催日時：令和 7 年 9 月 26 日（金）18:30～20:00
- 開催形式：オンライン（Zoom／アーカイブあり）
- 参加費：会員 1,000 円、非会員 3,000 円、学生無料
- 参加申込者数：69 名

本研修は、医療機関における運転再開支援、教習所における継続支援・終活支援、住民主体の外出支援活動など、多様な立場からの実践を共有し、地域包括ケアにおける作業療法士（OT）の役割拡大と可能性を考える機会として開催された。

2. 内容

講義

- 医療機関での個別性を重視した自動車運転再開支援
上伊那生協病院 作業療法士 小林和宏 氏
- 教習所における運転継続支援と運転終活支援の現状
真田自動車学校 教習指導員・理学療法士 宮下卓也 氏
- 住民・自治体と取り組む移動外出支援の実践
JA 長野厚生連長野松代総合病院 作業療法士 小渕浩平 氏

座談会

「地域包括ケアシステムの構築推進に貢献するためにそれぞれの立場からできること」

「医療」「教習所」「地域」の 3 つのブレイクアウトルームに分かれて自由にディスカッション

司会進行：自動車運転再開支援委員会 委員長/鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 池内由直

3. 参加者の状況

- 経験年数：1～5 年目から 21 年以上まで幅広い層が参加
- 専門領域：急性期、回復期、通所・訪問リハ、脳外科、教育、発達障害、地域支援など多岐にわたる
- 地域支援事業参画経験：
 - 「ある」：一定数
 - 「ないが興味あり」：多数
 - 「どう関わればよいかわからない」：複数

→ 臨床を中心とする若手 OT から、地域支援経験豊富なベテランまで幅広い層が集まり、多角的な視点から学び合う場となった。

4. アンケート結果（詳細）

満足度

- 「満足した」：約 8 割
- 「まあまあ満足した」：一部

→ ほとんどの参加者が満足を表明。学びの多さと実践的な視点への評価が目立った。

感想・学び（抜粋）

- 地域支援の広がりに触れて
 - 「病院での運転支援だけでなく、地域で行っている移動支援について知見を深められた」
 - 「地域課題や現状を学べ、有意義な時間だった」
 - 「自身の地域でも何か始めたいと思うきっかけになった」
- 視野の拡大・実践への刺激
 - 「訪問リハに従事しているが、将来的には地元の地域活動に入っていきたいと改めて思った」
 - 「様々な立場からの話を聞き、視野が広がった。作業療法士としての柔軟性の重要性を再認識した」
 - 「運転をやめるだけでなく代替手段をどう提案できるか、考えさせられた」
- 実践事例の具体性
 - 「えべさの会のような住民主体の取り組みは、自分の地域でも参考になる」
 - 「教習所と医療がつながる事例を知り、協働の可能性を実感」
 - 「運転終活の支援をどう地域で進めるか、非常に具体的な示唆を得られた」
- 研修形式への評価
 - 「座談会で小グループに分かれて感想を言えたのが良かった」
 - 「短時間ながら濃密な研修で、他県士会の活動の参考にもなった」
 - 「敷居が高いと思っていたが、身近な内容で安心して学べた」

今後への要望

- 「行政関係者も巻き込んだ議論があるとさらに良い」
- 「他病院や他士会での取り組みも知りたい」
- 「養成校としても関わりたい」
- 「コラボ研修を継続して開催してほしい」

5. まとめ

本研修会では、

- 医療、教習所、地域住民の連携による移動支援の可能性
- 運転再開・継続支援における専門職の役割
- 運転終活と代替手段提示の社会的意義

が共有され、参加者からは高い評価と今後の活動への期待が寄せられた。

特に印象的だったのは、臨床現場にとどまらず「地域」に目を向けたいという声や、「自分の地域でも実践したい」という前向きなコメントが多く見られたことである。また、行政・他士会との連携や、OT 養成教育への広がりへの要望も寄せられ、委員会活動が地域包括ケアの推進に果たす役割の大きさを再確認する機会となった。今後も両委員会は、多様な立場の実践を紹介しながら、作業療法士が地域で果たせる役割を発信し続けていきたいです。